



- 南紀白浜空港から羽田空港へ 約1時間10分
- 和歌山市まで
- 関西国際空港からバスで 約40分
- 大阪市内中心部から車で 約1時間
- JR
- 新幹線
- 南海電鉄
- 高速・自動車専用道路
- 京奈和自動車道
- 主要道路
- 今号の取材先

メディア関係の皆さまへ

和歌山県では、取材への積極的な協力・現地情報の提供等を行っています。

お問い合わせ
和歌山県広報室
TEL 073-441-2032 FAX 073-423-9500
e-mail nagomi-waka@pref.wakayama.lg.jp

県外にある情報コーナー
東京 わかやま喜集館
東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館地下1階
TEL 03-3216-8000 FAX 03-3216-8002
e-mail wtkankou@sepia.ocn.ne.jp
案内時間 10:00 ~ 19:00(日曜、祝日は17:00まで)
休館日:年末年始

名古屋 和歌山県名古屋観光センター
名古屋市中区栄4-1-1 中ビル4階
TEL:052-263-7273 FAX:052-265-0327
e-mail wakayama758@crocus.ocn.ne.jp
案内時間 9:00 ~ 17:45 (月~金) ※祝日・年末年始は除く

和歌山県フォトライブラリー (写真貸出)
http://www.pref.wakayama.lg.jp/photo/

和歌山応援団求む。

「ふるさと和歌山応援寄附」を通じてサポートしてください

和歌山県では、世界遺産や文化財の保全、2015国体開催、美しい海づくり、森づくりなどに活用させていただきます。選択肢の中から活用方法の指定もできます。どうぞよろしくお願いします。

ふるさと和歌山応援サイト
www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/
※クレジットカードもご利用可能です。

企画・発行 / 和歌山県
発行日 / 平成20年11月14日
編集 / (株)エフピーアイ・コミュニケーションズ
印刷 / (株)恒陽社

wadai | 03

全国初YouTubeによるインターネット放送

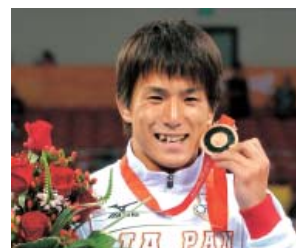


8月28日、世界最大の動画共有サイトYouTubeを使っての和歌山県インターネット放送局が始まった。都道府県が運営するインターネット放送でYouTubeを導入するのは全国初。県のHPでは、8チャンネル、約300本の動画で構成されており、うち約200本がYouTubeを利用。「みんなの投稿チャンネル」、祭りや県産品を紹介する「ディスカバー和歌山」、自然、歴史、伝統産業など体験を通して紹介する「ほんまもん体験」などが発信される。今秋のおすすめは県職員手づくりの「柿ソング」!!

和歌山県インターネット放送局 http://www.pref.wakayama.lg.jp/nettv

wadai | 04

銅メダル獲得の湯元選手、ふるさとでも大忙し



和歌山市出身のレスリング湯元健一選手が、北京五輪のフリースタイル60キロ級で銅メダルを獲得、9月10日母校を訪ねた。感謝の気持ちを伝えるとともに得意技のタックルも披露し、子供らから大きな歓声が上がった。小学3年の時、国体選手だった父の下で双子の弟とともにレスリングを始め、4年生で「世界チャンピオンになる」と決めた彼は「大きすぎる夢でもいいから目標を持って」と後輩たちを力強く激励した。知事より県スポーツ顕賞を授与され、「和歌山のレスリング発展のためにも、次は弟と2人で金メダルをとりたい」と語る湯元選手、ガンバレ!

レスリング銅メダリストの湯元健一選手

wadai | 02

白浜生まれのパンダ、双子の赤ちゃんを出産



白浜町のアドベンチャーワールドのジャイアントパンダ・良浜(ラウヒン8歳)が9月13日、双子を出産。日本生まれのパンダによる出産は国内初という二重のオメデタだ。良浜は8月中旬から妊娠の兆候があり、1ヶ月後に体重194gのメスと、体重116gのオスの赤ちゃんを産んだ。飼育担当者は、「白浜生まれの良浜がお母さんになり、感激ひとしお」と喜びつつ、「小さな子供は体調が急変しやすい。全力で子育てを助けたい」という。2000年に園内で産まれた良浜は、初産にもかかわらず2時間おきに交互に授乳するなど、しっかり母親らしさを見せている。双子は10月11日より毎日20分間「公開体重測定」として一般公開され、元気な姿を見せている。今後の親子での公開が楽しみだ。

(上)赤ちゃんを抱く良浜、(下)双子の赤ちゃん/写真:アドベンチャーワールド提供

wadai | 01

『小梅日記』で城下町和歌山を再発見



幕末から明治の激動の時代を生き、芸術に通じ、好奇心旺盛な女性。紀州の才媛川合小梅が70年間書きつづった『小梅日記』が今、注目されている。祖父から漢学、母から和歌、藩の野際白雪から絵画を学んだ彼女は、紀州藩士の妻として現在の和歌山市に住み、日常生活から大政奉還や坂本龍馬暗殺などの事件、天災、世界地図、天文学など毎日細かく日記をつけていた。日記は庶民の暮らしをありのままに伝える史料として、また女性の目から見た幕末の記録としても価値が高い。

今年行われている和歌山城天守閣再建50年を祝う「城フェスタ」では、小梅の没後120年目の企画展などを実施。「小梅日記を楽しむ会」がゆかりの地ウォークを主催したところ、多くの参加者を集めた。日記に登場する和菓子店が小梅の落雁を発売するなど、梅の郷の小梅ブームはしばらく続く模様。

幕末を生きた紀州藩士の妻、川合小梅(雑賀紀光氏 筆)

EVENT

東洋と西洋が響きあう「祈りの道」写真展

12月16日(火) ~ 3月15日(日) 相田みつを美術館

熊野古道とスペインのサンティアゴ巡礼道の姉妹道提携10年を記念し、スペインの写真家ルイス・オカニャ氏が熊野を、日本の写真家六田知弘氏がサンティアゴを撮った写真展が東京で開催される。



石段を2千人が駆け下りる「お燈祭り」

2月6日(金) 神倉神社

新宮市の神倉神社で毎年2月6日夜に行われるお燈祭りは1400年の歴史がある。「上り子」と呼ばれる白装束の男たちが、松明を手に急峻な石段538段を駆け下り、家内安全を祈願する。



“遠くて近い”和歌山を東京でPR「東京ー和歌山ラウンドトリップ」

12月1日(月) ~ 30日(火) ほか、東京ミッドタウン

新宮市出身の写真家鈴木理策氏の写真展、東京の熊野神社と熊野三山とのつながりについてのディスカッション、県産果樹を使ったスイーツの試食と醤油の歴史を語るセミナーなど、文化・歴史・食をテーマに遠くて近い東京と和歌山の関わりを紹介。



(記事 P.8)